

鳥取・米子城跡八遺跡

よなごじょうせき

田の屋敷となつてゐる。

- 1 所在地 鳥取県米子市加茂町
2 調査期間 一九九五年（平7）一月～四月
3 発掘機関 財米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
4 調査担当者 高橋浩樹
5 遺跡の種類 城下町
6 遺跡の年代 一七世紀～一九世紀
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

米子城跡は米子旧市街地に位置し、標高九〇mの湊山（城山）を中心には形成された城下町である。

今回の調査地は城の正門に近く、正門からのがいわば城下町のメインスト

リートに面する位置にあり、

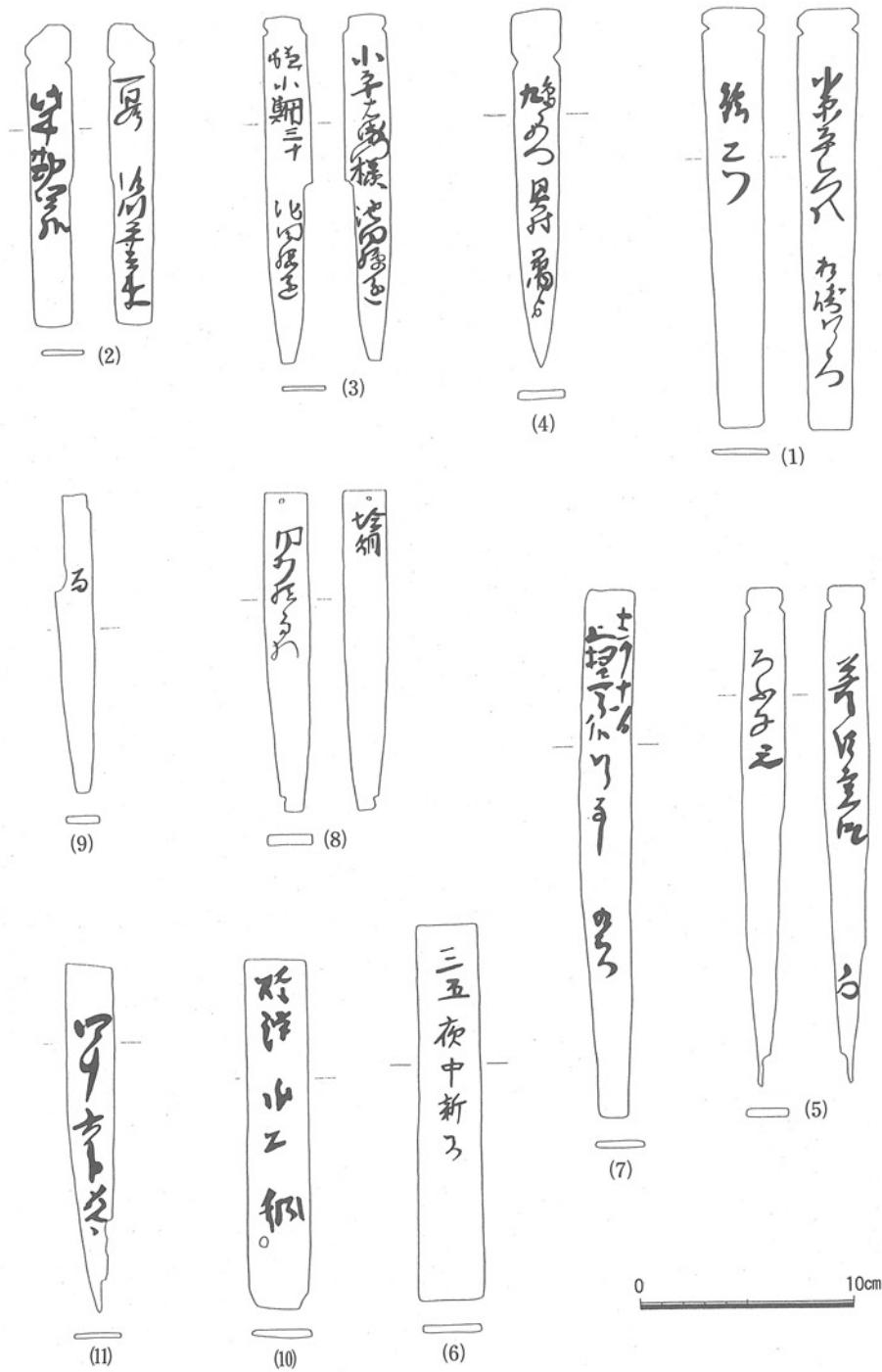
宝永六年（一七〇九）、享保五年（一七一〇）の絵図で

は臼井金右エ門と伊木小治郎の屋敷、安政年間（一八五四～五九）の絵図では国



- 8 木簡の釈文・内容
- (1) 「▽小原平右衛門様 松崎八郎又門」
・「▽鰐一〇」
201×28×3 032
- (2) 「▽□□ □川平兵衛」
・「▽佐々木勘兵衛様」
144×22×3 032

- (3) 「▽小原右衛門様 池田孫之進」
「▽塙小鯛三十 池田孫之進」
165×21×2 033
- (4) 「▽鳩五つ 奥村萬衛門」
172×24×4 033
- (5) 「▽荒儀太夫殿」
「▽ふるふじ」
238×21×4 033
- (6) 「三五夜中新月」
180×31×4 011
- (7) 「十一月十八日」
上□□様行事 九右衛門
252×25×3 011
- (8) 「○□□」
「○□□□□□」
153×21×5 011
- (9) □
(144)×28×4 019
- (10) 「□満□□□○」
165×30×4 011
- (11) 「四十六升五合」
164×24×2 051
- (12) 「四斗六升」
「十月□□」
□上五升八合 □□
(171)×29×3 059
- (13) □□□□
(171)×29×4 081
- (14) 「新山村又×」
(114)×22×2 019
- (15) 「□□」
205×25×3 051
- (16) 儀右エ門様
□くれ
か□□□□□□
(174)×31×4 059
- (17) □□□□
(117)×17×3 059
- (18) □
(146)×22×3 059
- (19) □左衛門様 西野三右衛門
(158)×20×3 019
- (20) 安右衛門
(113)×27×7 081



0 10cm

1995年出土の木簡



(18)



(17)



(14)



(13)



(12)



(21)



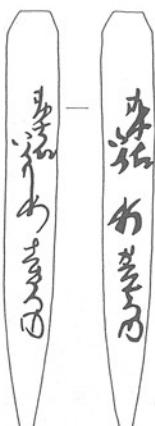
(20)



(19)

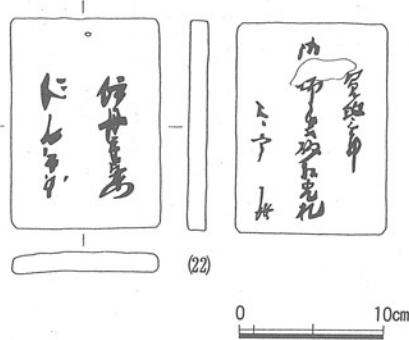


(16) (17)



(15) (22)

0 10cm



0 10cm

(21)

「平右衛門様」

135×19×8 011

(22)

・「寛政三年

□御 □堀 □土砂船免札

・「伊丹重左衛門

」

143×99×12 011

所在地　広島県東広島市西条西本町
 調査期間　一九九四年（平6）六月～七月
 発掘機関　財東広島市教育文化振興事業団

1　所在地　広島県東広島市西条西本町
 2　調査担当者　妹尾周三
 3　発掘機関　財東広島市教育文化振興事業団
 4　遺跡の種類　集落跡
 5　遺跡の年代　戦国時代（一六世紀前半）

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

東広島市は、広島県南部のほぼ中央、標高100～110mの賀茂台地上に位置しており、遺跡は県内有数の穀倉地帯である西条盆地中央部の東広島市街地に所在する。

山崎一号遺跡は、市道西



(海田市)

条中央巡回線の改良工事に伴う緊急発掘調査のため、限られた範囲の調査ではあつたが、戦国時代の集落が確認され、貴重な成果を得ることができた。

(1)～(5)、(7)、(10)～(12)、(14)、(16)、(19)～(21)は荷札木簡で、宛名、差出人、品物、数量が書かれている。(1)、(3)、(21)の小原平右衛門は同一人物であろう。(5)は荒尾儀太夫のことと、慶安二年（一六四九）の分限帳では五〇〇石取りとなっている。(6)は『和漢朗詠集』の一節である。(14)の新山村は米子市の南西部に位置する。(21)は桶の底板を再利用したものである。(22)は桶または樽の側板を再利用したもので、堀を浚渫した土砂の運搬船の免札であろう。

なお、今回の調査地に隣接する米子城跡七遺跡からも四枚の荷札木簡が出土している（本誌一七号）。

(高橋浩樹)

広島・山崎一號遺跡